

第4回香取市液状化対策検討委員会を開催します

香取市では、東日本大震災による地盤の液状化被害を受けた地域で、再度災害の発生を抑制するため、道路などの公共施設と隣接宅地の一体的な液状化対策を検討しています。

4月3日に第3回香取市液状化対策検討委員会を開催し、液状化の検討方法や液状化の検証結果、追加地質調査についての検討を実施したところですが、この度第4回委員会を次のとおり開催することになりました。

今度の委員会では、地質調査結果について中間報告するとともに、再液状化や側方流動の検討結果、モデル地区の設定及び液状化対策工法の検討について審議します。

会議の名称	香取市液状化対策検討委員会（第4回）
開催日時	平成25年6月25日（火曜日） 14:00~17:00
開催場所	香取市役所 5階 501、502 会議室
会議の議題	(1)地区の概況（補足） (2)公共建物の調査結果（補足） (3)地質調査中間報告 (4)液状化の検証結果 (5)再液状化の検討結果 (6)側方流動の検討結果 (7)モデル地区の設定について (8)液状化対策工法の検討について
委員	別添のとおり
会議の公開・非公開の別	公開します（資料は一部非公開）
傍聴手続	開催場所にて受け付けます。傍聴を希望される方は、事務局の指示に従って入室してください。なお、会議中、傍聴者の発言はご遠慮願います。
資料の一部非公開の理由	個人に関する情報であって、当該情報に含まれる記述等により特定の個人を識別することができるもの、又は公にすることにより、個人の権利利益を害するおそれがあるものが含まれるため。

問い合わせ先 香取市 建設水道部都市整備課 市街地整備班
担当 坂本、平野、竹本
TEL0478-50-1232（内線 2641）

(1) 地盤の液状化に関する専門家 4人 (土木工学2人、建築工学2人)

(土木工学)

石原 研而 (いしはら けんじ) 中央大学研究開発機構教授
地震発生時の地盤変化の解明に対する長年に渡っての研究

(土木工学)

古関 潤一 (こせき じゅんいち) 東京大学生産技術研究所教授
液状化現象の解明及び地盤改良土の強度特性の評価

(建築工学)

中井 正一 (なかい しょういち) 千葉大学大学院工学研究科教授
都市基盤としての地盤環境、地震防災に関する研究

(建築工学)

松下 克也 (まつした かつや) 株式会社ミサワホーム総合研究所部長
戸建住宅の基礎、液状化対策に関する研究

(2) 国土交通省関東地方整備局利根川下流河川事務所 1人

中村 徹立 (なかむら てつや) 事務所長
液状化した利根川下流域の地域状況に明るい者

(3) 千葉県建設業協会香取支部 1人

石井 良典 (いしい よしのり) 支部長
液状化対策に関連して地域状況及び工事施工に明るい者

(4) 千葉県建築士会香取支部 1人

林 清一 (はやし せいいち) 支部長
液状化対策に関連して地域状況及び建築物の設計に明るい者

第3回の液状化対策に関する市民説明会を開催します

香取市では、東日本大震災による地盤の液状化被害を受けた地域で、再度災害の発生を抑制するため、道路などの公共施設と隣接宅地の一体的な液状化対策を検討しています。

この検討作業について、2月23日に第2回の説明会を佐原中央公民館と小見川スポーツコミュニティセンターで開催し、計36人の参加がありました（内容については下に記載）。

今回、第3回目の説明会では、地質調査の結果や液状化の検討方法、モデル地区などについて説明する予定です。

説明会名称	液状化対策に関する市民説明会（第3回）
開催日時 及び場所	平成25年6月29日（土曜日） 10:00－11:00 佐原中央公民館視聴覚室 13:30－14:30 小見川市民センターいぶき館301研修室
説明内容	(1) 液状化対策工法検討のための地質調査結果 (2) 液状化の検討方法 (3) モデル地区の設定について ほか
対象	液状化被災地区にお住まいの方はもとより、どなたでも参加いただけます。

問い合わせ先 香取市 建設水道部都市整備課 市街地整備班
 担当 坂本、平野、竹本
 TEL0478-50-1232（内線 2641）

第2回市民説明会の内容について

第2回の説明会では、香取市における液状化対策のこれまでの取り組み、事業の制度、検討対象地区の土地のなりたちについて説明を行いました。

■説明内容

- 地盤液状化のメカニズムについて
- 液状化対策工法（代表的な工法を2例）

地下水位低下工法 地中に集水管を埋設して排水する工法。地盤沈下に注意が必要。

格子状地中壁工法 地盤を格子状に囲む工法。地下水位低下工法より費用がかかる。

●液状化対策の検討方法

現地盤と対策後の想定地盤の液状化判定結果を比較して効果を確認。

現在、現地盤の地質データを集めるためにボーリング調査を実施中。

●現地建物被害調査（聞き取りによるアンケート調査）

調査人数 281人

液状化対策事業は、まだ半数の者が知らない状況。また、液状化対策の実施を半数以上が望んでいるが、個人負担を懸念している。

●今後、モデル地区を設定して検討

地質調査が完了後、どの工法が適しているか、個人負担はどのくらいになるか、モデル地区を選定して検討を行っていく。

■質疑応答

問) 住宅地周辺が道路に囲われていないと事業実施できないのか。また、道路だけの事業化はあるのか。

答) 周辺が全て道路に囲われていなくても可能ですが、道路等の公共施設と宅地を一体的に液状化対策していくことが事業の要件になっています。

問) 事業は平成26年度から実施するのか。

答) 関係住民の同意も事業の要件であるため、事業計画案を平成25年10月までに作成し、合意形成の支援に努めますが、復興交付金を活用するには、平成27年度までに工事に着手する必要があります。

第2回説明会の資料については、都市整備課で閲覧できるほか、香取市のホームページに掲載しています（市ホームページ→東日本大震災関連情報→液状化対策）。

以上